

名古屋市におけるアズマヒキガエル*Bufo japonicus formosus*の分布の変遷

寺本匡寛（なごや生物多様性センター）・浅香智也（なごや生物多様性保全活動協議会）



要旨：全国的に情報不足や普通種であるアズマヒキガエル(*Bufo japonicus formosus*)はガマガエルの通称で知られる大型のカエルで、分布は本州山陰・近畿以東である。名古屋市では、レッドデータブックなごや2015で絶滅危惧Ⅱ類に評定されており、名古屋市内における本亜種の過去から現在までの分布状況を把握するため市民参加型のアンケート調査を実施した。その結果、過去には名古屋市16区(全区)に生息していた可能性が示唆された。また、1991年以降に目撃情報のない西区と2001年以降に目撃情報のない北区は絶滅してしまった可能性が高く、2011年以降に目撃情報のない東区、中村区、中川区は絶滅間近と考えられる。

はじめに

アズマヒキガエルは、ガマガエルの通称で知られる大型のカエルで、分布は本州山陰・近畿以東である。「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2015」において、絶滅危惧Ⅱ類に評定されており、**誰にでも識別が容易で、乱獲される恐れも少ないと考えられる本亜種**について名古屋市内における過去から現在までの分布状況を把握するために**市民参加型のアンケート調査**を実施した。

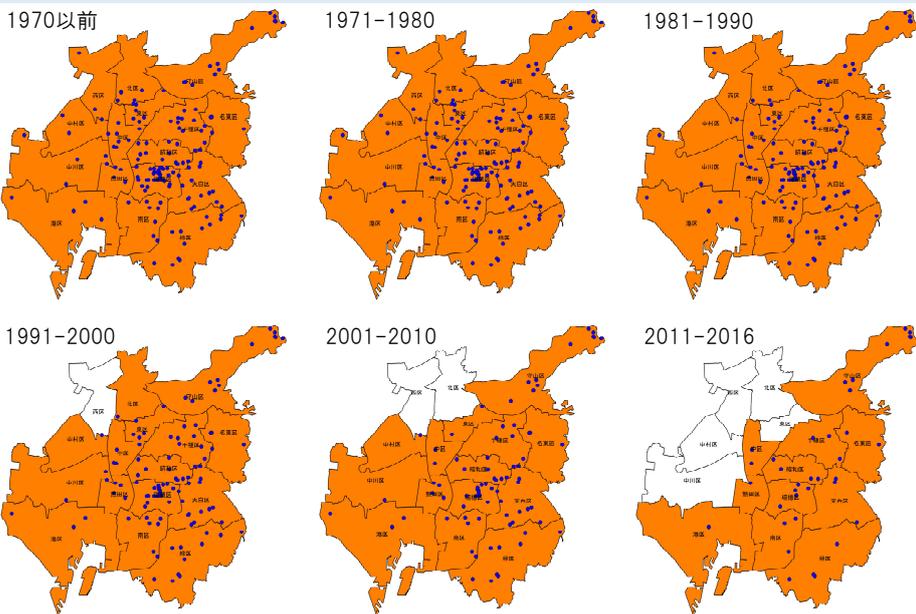


調査方法

- 調査地：名古屋市
 - 対象種：アズマヒキガエル
 - 調査期間：2015年6月3日
～2016年7月31日
 - 調査方法：アンケート調査
 - 募集方法：
 - Web上にアンケート用紙を公開
 - なごや生きもの調査員にメールで案内
 - 名古屋市内の社寺仏閣911件に郵送
 - 名古屋市図書館（全21施設）に配架
 - なごや生物多様性センター、なごや生物多様性保全活動協議会等の活動で案内
- 以上、5,000枚を配布



結果：分布の変遷

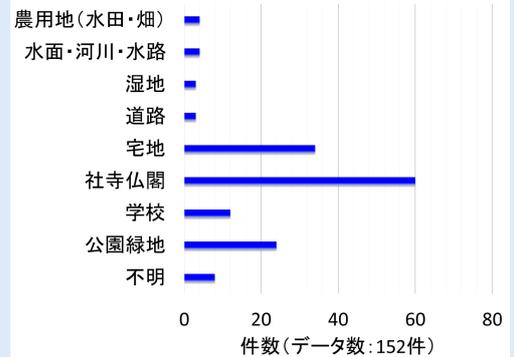


- 総計226件の回答を得ることができた。
- 回答のうち、アズマヒキガエルの情報が得られたのは195件（152地点）であった。
- 名古屋市16区(全区)の生息情報を得ることができた。
- 西区は1991年以降、北区は2001年以降、東区、中村区、中川区は2011年以降の確認情報が得られなかった。

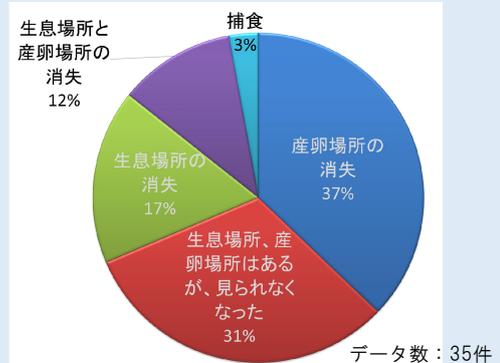
凡例

- 情報がある区
- 情報がない区
- 情報が得られた地点

結果：確認環境



結果：消失理由



考察・まとめ

- 過去には名古屋市16区(全区)に生息していた可能性が高いことが示唆された。
- 原亜種のニホンヒキガエル(*Bufo japonicus japonicus*)の平均寿命(オス：6~7年、メス：5~6年)と同程度と仮定すると、1991年以降に目撃情報のない西区と2001年以降に目撃情報のない北区は絶滅してしまった可能性が高く2011年以降に目撃情報のない東区、中村区、中川区は絶滅間近と考えられる。
- 今後、アンケート調査の補強を行うとともに、現地に出向き生息の確認を行う必要があると考えられる。